

化学放射線治療効果を予測する非侵襲的画像パラメータの開発

『研究対象者並びにご家族の方へ』

九州大学病院において2004年以降2008年までに頭頸部癌に対する化学放射線治療を受けられた方を対象とさせていただきます。

【はじめに】

化学放射線治療は頭頸部癌に対するすぐれた治療法ですが、その効果については個人差も多く、治療前に効果を予測することは難しいと考えられてきました。しかし、最近の画像診断技術の進歩によって、治療前や治療中間時点、あるいは治療後の種々の画像情報から、その後の治療効果が予測できるのではないかと考えられるようになってきました。

【研究内容】

九州大学病院で行った各種の画像検査(MRI CT FDG-PET など)を解析し、治療効果や予後と関連する因子を探り当てようとする研究です。因子として、見かけの拡散係数(ADC)・FDG集積率(SUV)・治療中間時点での縮小率などを考えています。

【研究期間】

研究を行う期間は2011年までと考えております。

【医学上の貢献】

この研究により、治療開始前、あるいは開始後早い段階で、治療効果や予後の推定が可能になれば、効果が高いと推定される場合は、抗がん剤や放射線の量を減らせる可能性があります。逆に、効果が十分でないと予想される場合には、薬や放射線の量をふやしたり、早い段階で他の治療法を検討することが可能になります。

【研究機関・問い合わせ先】

九州大学大学院 臨床放射線科学

教授 本田 浩

講師 藪内英剛

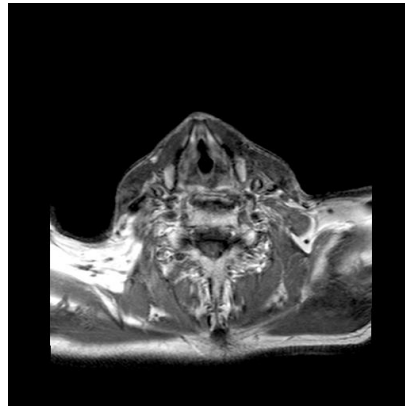
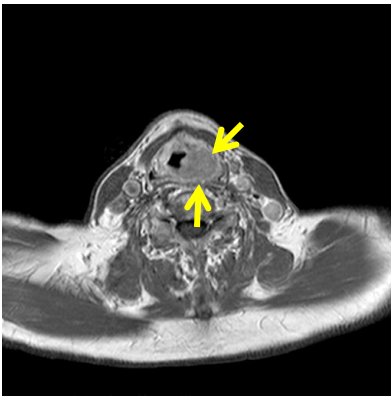
助教 塩山善之 馬場真吾

医員 神谷武志 大西かよ子

放射線部

准教授 畠中正光

連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1 Tel 092-642-5695



ほぼ同様の化学放射線治療を行ったのですが、上段の症例では腫瘍が消失しているのに対し、下段の症例では残存しています。

